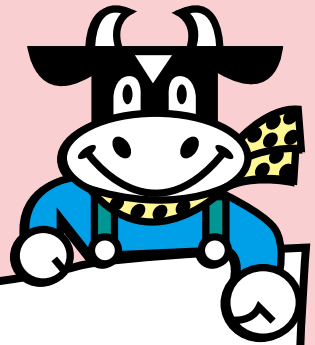


# ワンポイント・アドバイス



## 子宮捻転

子宮捻転は、全ての動物で起こること  
が知られており、中でも牛は発生が多い  
と言われています。これは、牛の子宮は  
腹腔内でごく一部分で体に吊られてお  
り、不安定な上、羊水や胎子の重みで妊  
角と不妊角とのアンバランスが生じるた  
めです。

では、実際に牛のお腹の中でどのよう  
なことが起こっているのでしょうか。子  
宮捻転は妊娠子宮がその長軸方向に捻転  
している状態をいい、左右どちら側にも  
おこります。捻転がおこると、子宮を  
吊っている子  
宮広間膜は捻  
転方向に引っ  
張られ、重度  
なものでは捻  
転部位が雑巾  
を絞ったよう  
な状態になります。(図参照)



▲左方子宮捻転の模式図

す。捻転が軽度の場合にはわかりやすい症  
状を出さない場合もあります。分娩直前  
や分娩経過中におこる子宮捻転では、分  
娩兆候を示しているのになかなか産まれ  
てこない、食欲がないことなどで異常に  
気付きます。この時産道に手を入れてみ  
ると、捻転方向へスジが走っているのが  
わかり、手を捻らないと外子宮口や胎子  
に触れないことが多いです。捻転が重度  
の場合、外陰部の片側だけが腫れていた  
り、捻じれるように変形しています。

治療法は、アプローチする部位によっ  
て大きく分けると三つです。

1. 胎子・母牛を立たせそのまま胎子を捻  
転方向と逆側へ回転させ回復します。
2. 母牛・母牛を寝かせて捻転方向へ転  
がしたり、後肢を吊りあげることなどで回復  
します。
3. 子宮・上記の方法で修復できなかつ  
た場合や、明らかに捻転が重度な症例に  
適用します。開腹手術を行い、妊娠中期  
の場合は子宮の捻転を直して閉腹、分娩  
直前の場合は帝王切開となります。ま  
た、上の二つのいずれかで捻転は治った

ものの、子宮頸管が十分に拡張せず経膈  
分娩が難しいことがよくあります。この  
場合も帝王切開を行います。帝王切開と  
なると、少し抵抗があるかもしれませんが、  
特に手術室に搬入できない場合は、  
組合員の皆さんにも手術のために準備を  
お願いします。しかし、無理に牽引して  
経膈分娩をさせることは、母牛の衰弱は  
もちろんのこと、産道損傷や子宮破裂、  
骨盤骨折、分娩後の神経麻痺等につなが  
る可能性があります。帝王切開でこれら  
のリスクは回避されます。また帝王切開  
をしても通常の分娩後同様に受胎するこ  
とが可能です。帝王切開は決して最後の  
諦めの手段ではなく、その後の母牛の生  
産活動を考えた上での前向きな治療方法  
であると認識してください。

予後は、捻転の度合いや、捻転がおき  
てから治療までの経過時間によります。  
早期発見が大切です。分娩前に少しでも  
食欲が落ちたり、産道に手を入れてみて  
いつもと様子が違う時には、すぐに診療  
依頼をしてください。